

「ご近所付き合い」の大切さ

広島県東広島市立高屋中学校 2年 平田 春奈



私が、住んでいる住宅街には、お年寄りが多く暮らしています。もともと、ずいぶん前にできた住宅街なので、長い間、住んでいる子どもは、私と妹、弟の三姉弟だけでした。

小さいころは、近所に一緒に遊べる同年代の友達がいないことが寂しかったけれど、最近になってからは悪いことばかりではないなと思えるようになりました。

私が、住んでいる住宅街の特徴は、ご近所付き合いがとても濃いことです。日常的に顔を合わせる機会が多く、立ち話をすることもあれば、お互いにおすそ分けをすることもあります。母の話によると、私と妹が母に叱られて、家の外で遊んでいたときに、近くに住んでいるおばあちゃんが、声をかけてくれて、じやがいもをもらって帰ってきたことがあったそうです。子どもながらでも、「地域の人は、私たちのことを気にかけて、可愛いがってくれているんだな」と感じられた出来事でした。

一方で、私の祖父母は千葉のマンションに住んでいます。夏休みや年末年始に遊びに行きますが、そこでは、ご近所付き合いは隣の部屋に住む人と挨拶を交わす程度です。都会では人との距離感が少し遠く、日常的に立ち話をしたり、物のやりとりをしたりすることはあまりありません。祖母のマンションと自分の住宅街を比べたとき、地域のつながりがどれほど違うかを強く感じます。

最近、防犯の観点からも「地域の目」が重要だと言われています。顔見知りが多い地域では、外から来た不審者を見分けやすく、犯罪を未然に防ぐ効果があります。私の住宅街のように、誰がどこに住んでいるのかをお互いに知つていると、「あの人は見かけない顔だな」とすぐに気づくことができます。もしも私が知らない人に声をかけられたり、危ない目に遭いそうになったとき、地域の人が私の顔を覚えていてくれることはきっとプラスに働くでしょう。また、防犯は大人だけの問題ではなく、子ども自身も地域とのつながりを感じることが大切だと思います。私も小さいころからたくさんの人々に声をかけてもらい、見守られて育ってきたことでご近所付き合いが、けしてマイナスな面ばかりではないことを感じてきました。

しかし、最近では、町内会や地域の集まりが減ってきていると聞きます。人の関わりが減ることでプライバシーは守られるかもしれません、防犯の面から見ると必ずしも良いことばかりではありません。私の住宅街のように、地域の人たちが顔を知っていて、普段から声をかけえる環境は安全で安心な暮

らしの大きな支えになります。

これからも私は、この住宅街で育ったことを誇りに思い、地域とのつながりを大切にしていきたいと思っています。